

事業の実施状況等について
【東淀川区】 (受託者等:-)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

百律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての地域においてステージ1は概ねクリアできている。 ●多くの地活協において自主財源の確保よりも担い手の減少が課題となっている。(ヒト>カネ>モノ)
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての地域においてステージ1は概ねクリアできている。 ●HP、SNSを活用したイベントの告知を拡げていく必要がある。 ●地活協内部の連携、地活協外部との連携、公共人材の活用が多くの地活協において共通して弱い。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの地域において議決機関の運営が適正に行われ、広報紙も全ての地域が発行している。ただし、一部、会長の交代により事務局機能の低下がみられる。 ●多くの地活協において、議事録の公表(広報紙、HP、SNSの活用)、SNSを活用した双方向の情報発信、広報媒体を用いた広告(収益)事業が取り組めていない。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※) Ⅰ・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
 Ⅱ・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士との連携・協働【外部との連携】 ・Ⅱ 地域公共人材の活用
 Ⅲ・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動

項目(※)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
百律	○			<p>①区内17地域活動協議会(以下、地活協)すべての会長へインタビューを行い、地域課題や資源について意見交換を実施する。</p> <p>②区役所作成の「地域活動に活用できる資料」を用いて、各地活協の実務担当者とともに、それぞれの地域に「あったらいいな」と思える資料とその活用法を考える。</p> <p>③平成30年度末に区役所で作成した居場所リスト(地域活動リスト)に基づき、それぞれの地域での地域活動に赴き、実務担当者等へ随時ヒアリングを実施する。</p> <p>④もと西淡路小学校の跡地のあり方を住民主体で考えるための検討会(もと西淡路小学校跡地検討会議)をサポートし、今後マーケットサウンディング調査を行うための意見を出す。</p> <p>⑤西部地域まちづくり構想に基づき、下新庄地域でのワークショップをサポートする。</p>	<p>①住民のニーズと課題を全17地域にリサーチした。</p> <p>②地域カルテの活用 ・地活協連絡会議にて、「東淀川区人口推移表」を配布し、「少子高齢化が進むと何がどう問題なのか」、「統計を読んでも、見えてきたことは？」を説明した。 ・東淡路・柴島地活協の実務担当者と話しをしていく中で、地域活動を進めるうえで、スケジュール感を持たない人が地域に多いという課題に気づき、カレンダー表を作成するに至った。 ・啓発地活協運営委員会において、「啓発・街頭犯罪白書(平成21～30年)」を配布し、啓発地域の犯罪の特徴について説明した。</p> <p>③16/17地域、29活動に赴き、ヒアリングを行った。(大隅東地域除く) ヒアリングの内容は区役所職員とも共有した。</p> <p>④ファシリテーターとして、6月12日と9月11日、11月26日、12月11日の検討会議に参加した。</p> <p>⑤ファシリテーターとして、10月29日に下新庄地域における住民が個々に保有している情報を地図に落とし込む形式での意見交換の場に参加した。</p>	<p>①地活協会長へのインタビューを通じて、各地域における「ヒト・モノ・コト」などの資源や「課題」などについて、定性的に把握し、地域活動フォトムービーの作成支援と大桐地域への地域公共人材派遣に繋げた。</p> <p>②地域カルテの活用 ・「少子高齢化が進むと何がどう問題なのか」で、計算問題を出題し、問題を解くことで少子高齢化問題の現状を体験していただいた。 ・「統計を読んで、見えてきたことは？」で、人口分析をすれば、地活協の事業計画の見直しや地域別保健福祉計画の枠組みが作成できることを体験していただいた。 ・地域内の会議にてカレンダー表を配布した。会議参加者の反応も良いとのこと。 ・地域の犯罪発生状況の特徴を説明し、地域内で話し合うための土壤を醸成した。</p> <p>③居場所リストの更新と地域活動のヒアリング ・高齢者等交流事業や食事サービス事業において参加者の固定化や減少が目立ってきている。新たな参加者を募ることが望まれるが、新たな参加者が参加するための方法が明確になっていないということがわかった。 ・大道南地活協では、月1回広報紙を発行しているが、広報担当者が一人しかおらず、引継ぎ体制ができていないことがわかった。また、広報紙に対する地域の反応や感想が広報担当者に聞こえて来ない等の不安を聞き出した。 ・大道南地域への訪問回数が増えるにつれ地域の広報担当者や地域内では比較的若い実務担当者との信頼が高まり、青色防犯パトロールのボランティアを募る際のチラシについて相談を受けた。アドバイスしたうえで、実務担当者がチラシを作成し、配布するところまで実施できた。 ・ヒアリングの内容を区役所職員とも共有し、区役所職員が地域へ赴く際の地域状況把握の一助を担った。</p> <p>④他区の事例を活用して跡地活用方策策定のプロセスを提示したところ、委員から一定の理解を得た。</p> <p>⑤個人の中に落とし込まれていて、言語化できていない情報をワークショップの参加者間で共有することができた。</p>	<p>①地域活動の現場や、会合に出向き、地域課題と地域資源に関する情報を継続的に把握する。</p> <p>②地域カルテの活用 ・地活協連絡会議にて、地域カルテの説明、特に人口統計の分析方法を説明したが、理解、そして活用までは至っていない。地活協の準行政機能を理解する上でも統計を読む作業は必須である。今後も人口統計の分析方法の説明は必要である。 ・カレンダー表を用いた会議が浸透してきているとのことで、課題は特に見られないが、カレンダー表作成担当者が1名であるため、後任をどう育てるのが今後課題になる。 ・今後、犯罪発生状況を踏まえた防犯活動が求められるが、それを意識し実行している地域は少ない。他地域でも引き続き研修を行いたい。</p> <p>③居場所リストの更新と地域活動のヒアリング ・高齢者等交流事業や食事サービス事業への参加方法の明確化と周知方法を地域と話す必要がある。 ・広報担当者から広報紙の作成状況を聞き取り、マニュアル化する必要がある。 ・今年度つながった、地域において比較的若い実務担当者から、新たなつながりを模索したい。 ・地域へのヒアリングの結果を区役所職員とも共有することで、区として地域の状況把握に努める。</p> <p>④廃校となった学校跡地の活用方策を検討するにあたり、地元住民から意見・要望を聞く際の条件整理をする必要がある。</p> <p>⑤下新庄地域以外でもワークショップを行い、個々にストックされている、情報を共有していきたい。</p>
				<p>地域の現状やニーズ等を把握することは非常に重要である。区役所作成の資料を切り口に地域へ入り、地域が必要とする資料とその活用法について支援してほしい。また、地域の現状やニーズ等を区役所職員とも共有し、より一層の連携に努めてほしい。</p>	<p>支援する中で見えてきた課題解決策の提案などフォローアップに努めてほしい。</p>	<p>身近な他地域の取組を共有し、ニーズに応じた支援をアウトリーチして取り組んでいただきたい。また、地域づくりアドバイザー三者三様のスキルを地域の特性に合わせて活かしてほしい。</p>	

事業の実施状況及び効果	○	○	<p>①地域と企業・学校機関・NPO・個人等の様々な主体者との繋がり場を設け、多様な協働の推進、ネットワークの充実を図る。</p> <p>②地域の有志が主体となる東淀川魅力発見プロジェクトを通じて、新たな人材と区の魅力を発掘・発信する。</p> <p>③地域公共人材の活用をすすめる。</p>	<p>①地域課題の解決を願う地域と、貢献活動に関心のある企業・学校機関・NPO・個人等が意見や情報の交換ができる場として「東淀川みらいEXPO」を開催し、また、コミュニティのレイヤーが繋がりあう場(ラウンドテーブル)として、「週末サロン“ひと×まち”コーデ」を定期的で開催している。</p> <p>6/23 週末サロン「まちづくりは“遊び”でもっと楽しくなる」(参加12名)</p> <p>7/27 週末サロン「ゲームdeまちづくり」(参加9名)</p> <p>9/22 週末サロン「未来の運動会」(参加6名)</p> <p>10/27 週末サロン「あなたも出来る！インターネットラジオ」(参加4名)</p> <p>11/24 週末サロン「オープンデータ入門」(7名)</p> <p>12/22 週末サロン「オープンデータ活用」(3名)</p> <p>1/26 週末サロン「地図と写真で綴る江口・大道の歴史」(3名)</p> <p>8/7 第3回東淀川みらいEXPO「な～るほど！ ザ 地域活動」(参加51名)</p> <p>12/12 第4回東淀川みらいEXPO「道標」(参加31名)</p> <p>②魅力発見プロジェクトの会議及びイベントのコーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議 毎月1回、計12回開催 ・主な事業 <p>5/21 暮らしの便利帳(記事作成)</p> <p>8/18 みんなで東淀川区の魅力を発信しよう！(協力)</p> <p>11/3 照らせ！ひがよど祭り(ブース出店)</p> <p>11/24 参地直笑in東淀川区(吉本興業と打ち合わせ、名所案内)</p> <p>2/22 第3回100年前の東淀川の記憶～小林康夫さん色紙絵展～(主催)</p> <p>③地域公共人材を活用して地域及びテーマ型組織の課題を解決していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大桐地域キャラクターの活用(7/26初回ヒアリング実施) ・NPO法人ライフレーション協会への公共人材派遣サポート(8月に2回派遣) 	<p>①情報発信と場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回東淀川みらいEXPOにおいて、地域活動フォトムービーをプレ上映し、区民まつり当日、休憩所にて上映した。 ・第4回東淀川みらいEXPOにおいて、地域課題解決に向けての取り組みや、ICT・CB/SB等の新しい視点について意見交換し、地域を越えてアイデアの横展開をサポートした。 ・週末サロン“ひと×まち”コーデにおいて、参加者同士が繋がり、お互いの活動スペースでイベント企画・実施した。また、参加者が「朝カフェの会(朝活交流会)@豊中市」や「ボードゲームカフェ@井高野よってっ亭」などを主催者としてスタートさせた。 <p>②プロジェクトの運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業開始から3年目となり、メンバーも今年度4名増え、総数21名となり、区内外の様々な機関との協働が実現してきている。 ・「くらしの便利帳」、「参地直笑in東淀川区」は東淀川区役所総務課(総合企画)の担当事業であるが、課を越えた連携ができた。 ・「みんなで東淀川区の魅力を発信しよう！」は、東淀川図書館主催の事業で、開催の協力を行い、ウィキペディアやオープンストリートマップの編集を行うことで、区の魅力を発信できた。 ・「第3回100年前の東淀川の記憶～小林康夫さん色紙絵展～」では、地域活動協議会に協力を得、地域の会館(大隅東)で開催した。広報(チラシ配架、ポスター掲示)も4地活協(大隅東、大桐、豊里、豊里南)に協力していただいた。 <p>③地域公共人材のもと、地域内で積極的な意見交換が行われた。</p>	<p>①新しい参加者を募り、多様なコミュニティの重なりを広げていく。</p> <p>②地域との連携も徐々に増えてきている。また、年度途中から、会議の議事進行、議事録の作成をプロジェクトメンバーが行うようになるなど、これまで区役所が行ってきた事務局としての役割をメンバーに担当してもらうことで、プロジェクトが自立に向けて動いている。</p> <p>③しっかりとした議論ができたこと好評であったため、派遣の回数を増やしたいと、地域から要望が出たが、この間受託事業者が代わり、地域公共人材、地域の参加者、受託事業者間の日程調整が以前より難しくなった。今後の派遣日を早急に調整し、今後のスケジュールを確定していく予定であったが、受託事業者問題が落ち着いた時点で、地域側のモチベーションが落ちていたため、来年度に議論の続きができるよう地域へ働きかける。また、東淀川区に関する幅広い情報を持つ地域づくりアドバイザーが同席することで、より充実した地域公共人材派遣をしたい。</p>
			<p>情報発信と場づくりが、繋がり場の拡充のために必要な支援であり、引き続きの取組をお願いしたい。</p>	<p>区役所として地活協を構成する既存の団体以外との繋がりが増えていることを実感できる。様々な主体者がいかに地活協と連携できるかが、今後の課題。また、地域公共人材のコーディネートと地域との繋ぎにも貢献してくれているので、他地域にも拡げていただきたい。</p>	<p>これまで地域活動の中心となってきた地縁団体と、経験や考え方は違うが同じ目的をもっている方たちとの連携は短いスパンで成果に繋げることが困難と思われるが、令和2年度も支援に取り組んでいただきたい。</p>	
○	○	<p>地活協の広報力向上サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催や個別支援により、紙、WEBなど各媒体のサポートや、大阪市市民活動総合ポータルサイトの活用など、各地域の実情や課題に応じたアドバイスや支援を実施する。 <p>①地活協の広報に関する現状を把握し、適切な講座を企画する。</p> <p>「Wordで作るチラシ講座」</p> <p>「伝えたい人に届けるための広報講座」</p> <p>②各地域協力のもと、地域活動をテーマにフォトムービー制作し、区役所公式YouTubに投稿する。</p> <p>「東淀川区地域活動紹介」</p> <p>③「東淀川区民まつり」ポスターのデザイン</p>	<p>①5/31「Wordで作るチラシ講座」参加者4名(豊新、大桐、一般参加者)</p> <p>②6/9「フォトムービー作成のための全体会議」実施。(参加6地域、20名)</p> <p>地域自慢フォトムービーを作成し、東淀川区YouTube公式チャンネル(チャンネル登録65)に投稿。投稿後1ヶ月で約200PV、2/13現在317PV</p> <p>③8月中旬「東淀川区民まつり」ポスターをデザイン。地活協広報にも使える「区民参加型広報のテストマーケティング」を実施した。</p> <p>比較的多くの地活協がイベントの広報に力を入れていただいているものの、組織運営面の発信が弱いことが見られるので、今後も各地域の運営委員会等を活用して必要性を浸透していただきたい。</p>	<p>①大桐地域の夏祭りポスターへアドバイス実施。</p> <p>②第3回東淀川みらいEXPOにて、地域活動フォトムービーをプレ上映し、区民まつり当日、休憩所にて上映。また、東淀川区YouTube公式チャンネルに投稿。投稿後1ヶ月で約200PV、2/13現在317PV</p> <p>③区民まつりポスターにおいて、「SNSに『#45th東淀川区民まつり』投稿で次年度の区民まつりに写真を使う可能性あり」の掲載。当日の告知はしなかったものの、ツイッター15件、インスタグラム1件、FACEBOOK1件のタグつけあり。</p> <p>イベント等の活動の発信は力を入れている地域が増えてきたところであるが、組織運営面の発信が弱いことが多くの地活協の現状であることから、地域のニーズに合わせて個別支援も行っていたきたい。</p>	<p>①各地域への広報支援は、ニーズを聴き、個別に対応していく。</p> <p>②SNS広報ツールや動画の効果的な利用法について、検討が必要。</p> <p>3/16「プロのWEBディレクターに学ぶ「伝わる!!」Facebook広報」を実施予定。</p> <p>③区民まつりポスターを題材としたテストマーケティングの結果分析を行い、地域への提案に繋げたい。</p> <p>広報講座の開催によって生まれるであろう個別地域のニーズへの支援を引き続きお願いしたい。</p> <p>また、ICTによるつながりの支援を拡充していただきたい。</p>	

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見	
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)				
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	地域づくりアドバイザー3名	担当地域は持たず、区内17地活協すべての会長および居場所リストに記載のある地域活動の実務担当者等へインタビューを行い、各地域のニーズを把握し、ニーズに応じてそれぞれのアドバイザーが支援を行う。 地域毎に成熟度と必要な支援が異なるため、担当地域を設けずに、ニーズに応じた支援を行うことは有効である。	各地活協会長等へのインタビューを順次行い、地域ごとの課題の把握に努めている。 地域が主体となって取り組むことができる組織運営や広報力の向上等については一定の成果が見えてきた。 一律に地域分けしていないことから、成熟度に応じて必要な支援を行ってきたことが、成果としてあらわれてきたものと考えている。 また、地域が肌感覚で持っている思い(課題)を形にするサポートも必要。	地域と企業・学校機関・NPO個人等との繋がりづくりについては、重要であるものの、一朝一夕では実現しない。中長期のスパンで、「あるべき姿」を追求する必要があると思われる。 地域活動においても、健康づくりや青少年育成、防災等、他の部署が行っている施策との関連性が強いものがあり、地域課地域グループ(以下、地域G)と他部署との横連携も強化していきたい。 地域と企業・学校機関・NPO個人等との連携については、地域づくりアドバイザーの支援効果があらわれるのに一定の期間を要し、短期的に可視化することが困難なことから、地域づくりアドバイザーのモチベーション維持のためにも短期の目標設定が必要である。 また、これまで地域Gが企業・学校機関・NPO個人等との間に構築してきた関係を活かし、地域Gだけでなく他の部署とも連携した取組を地域に拡げていくことが有効と考えられる。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等				
	(3)区のマネジメントに対応した取組				

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
地域カルテ活用支援	平成31年度各地活協事業計画一覧表と街頭犯罪白書(平成21~30年)及び平成27年国勢調査から見える地域の特徴を網羅したレポートを用いて、地域カルテ活用の支援を行う。	地域の状況を定量的・相対的に共有するため、平成31年度各地活協事業計画一覧表と街頭犯罪白書(平成21~30年)及び平成27年国勢調査から見える地域の特徴や、年齢別人口の推移をまとめたレポートを用いて、地域の実務担当者(東淡路・柴島地域)と共有し、どのように活用していくか話し合い、地域活動のスケジュールが一目でわかるカレンダーを作成しようということになり、現在、作成したスケジュール表を地域内の会議において参加者に配付した。また、区役所が主催する地域活動協議会連絡会議内で東淡路・柴島地活協の取組をはじめ、区内地活協での先進事例を共有するとともに、区役所職員に対しても様々な地域の取組を共有している。 作成された資料は非常に重要かつ有用であるため、地活協向け地域カルテ活用の支援として引き続き取り組んでほしい。	他の地域とも、このような取り組みを行うことで、これまでの取組とこれから必要な取組について、当事者として考えてもらう一歩となることを期待できる。 担い手の減少が課題としてあげられているが、一方で引継ぎがうまくいかない点や、行事等の棚卸ができていないことも原因である。急速に環境が変化していくことを考慮し、これからの取組を考える機会として、地域カルテ活用の支援を行っていただきたい。	地域カルテ活用の支援として、引き続き、各地活協にアプローチしていく。 支援の一つとして、東淀川区3地域の地域版保健福祉計画の報告を基に、IIHOE川北秀人講師より「東淀川区の将来予測」と「今すぐすべきことは何か」について学び、「これからの地域はどうなっていくのか」や「その時に地域ができることとは」を考える場として、合同研修会「非日常も日常も協働と住民自治で地域を守り続けるために」を実施予定(3/3開催)。 非常に重要な取組であるものの、地域版保健福祉計画策定の関わりにおいても、各地活協の反応は様々であった。特に、区役所からの押し付け感やさらなる負担感を感じる地域や、現状以上の取組が困難だという地域については、しっかりと成熟度をみながら、職員と連携した取組を行っていただきたい。

<p>地域と企業・学校機関・NPO・個人等の連携</p>	<p>地域課題の解決を願う地域と、貢献活動に関心のある企業・学校機関・NPO・個人等が意見や情報の交換ができる場を設けることで、連携・協働が促される機会の場づくりを行う。</p>	<p>多様な協働の推進、ネットワークの充実を目指し、第3回東淀川みらいEXPO「な～るほど！ ザ 地域活動」、第4回東淀川みらいEXPO「道標」を開催、社会資源(東淀川区を事業・活動エリアとする多様な組織の独自性や魅力)を浮き彫りにするとともに、組織間の連携の拡充をコーディネートした。</p> <p>また、コミュニティのレイヤーが繋がりあう場(ラウンドテーブル)として、「週末サロン“ひと×まち”コーデ」を定期的で開催している。</p> <p>6/23 週末サロン「まちづくりは“遊び”でもっと楽しくなる」(参加12名)</p> <p>7/27 週末サロン「ゲームdeまちづくり」(参加9名)</p> <p>9/22 週末サロン「未来の運動会」(参加6名)</p> <p>10/27 週末サロン「あなたも出来る！ インターネットラジオ」(参加4名)</p> <p>11/24 週末サロン「オープンデータ入門」(7名)</p> <p>12/22 週末サロン「オープンデータ活用」(3名)</p> <p>1/26 週末サロン「地図と写真で綴る江口・大道の歴史」(3名)</p> <p>8/7 第3回東淀川みらいEXPO「な～るほど！ ザ 地域活動」(参加51名)</p> <p>12/12 第4回東淀川みらいEXPO「道標」(参加31名)</p> <p>8/30 令和元年度第2回東淀川区BCP学びの場(参加9名)</p> <p>12/6 令和元年度第2回東淀川区BCP学びの場(参加6名)</p>	<p>第3回東淀川みらいEXPO「な～るほど！ ザ 地域活動」(参加51名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動フォトムービー共有(後方支援・ICT) ・井高野地域「大カラオケ大会」(CB/SB) ・西淡路地域「留学生との協働」(担い手) ・新東三国地域「小中学生の地域活動参加」(担い手) ・本庄地域「引継ファイルの作成」(引継) ・地域活動フォトムービーをプレ上映し、区民まつり当日も休憩所にて上映した。 <p>第4回東淀川みらいEXPO「道標」(参加31名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅原地域「防災情報の周知」(防災・ICT) ・豊里地域「子どもの見守り」(見守り・ICT) ・豊新地域「男性の地域活動参加」(担い手) ・阪南市箱の浦自治会まちづくり協議会「高齢化・独居暮らし・買い物難民など地域課題解決の事業展開」(事業計画・協働) <p>地域課題解決に向けての取り組みや、ICT・CBSB等の新しい視点について意見交換し、地域を越えてアイデアの横展開をサポートした。</p> <p>週末サロン“ひと×まち”コーデにおいて、参加者同士が繋がり、お互いの活動スペースでイベント企画・実施した。参加者主催により、新たに事業(活動)が始まった(件数3件)</p> <p>令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場において、地活協の構成団体である福祉施設(啓発地域)が参加し、開催後、その福祉施設からの要請を受け、の各事業の代表者8名に東淀川区のBCP策定支援を解説した。</p> <p>令和元年度第2回東淀川区BCP学びの場において、地活協の防災担当2名(菅原、東淡路・柴島地域)が参加し、区内企業の事例を聞き、BCPについて理解を深めた。</p>	<p>みらいEXPO開催時のアンケートでは、「防災をテーマに企画してほしい」という回答が比較的多く、「多様な連携による事業の事例が知りたい」という回答もあった。この2つの視点を基に、令和2年度の協働を生み出すための事業を展開していく。</p> <p>令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場 地活協の構成団体の中に福祉施設が多くいるが、その中の多くが災害時福祉避難所となる施設になる。福祉施設のBCP策定支援を今後も続ける必要がある。</p> <p>令和元年度第2回東淀川区BCP学びの場 区内地活協の中でも、活発に防災活動をしている地域の実務担当者は積極的に参加していただいたが、まだまだ防災活動に関心のない地域も多くなることが課題である。</p>
<p>地域活動協議会の広報力向上</p>	<p>充実した広報を行うことでもたらされるメリットを伝える。 広報担当者向けの学習会を開催することで、広報活動の重要性と魅力的な広報紙の作り方を学び、より効果的な広報活動ができるきっかけをつくり、地活協全体の情報発信力の向上や認知度をあげていくことをめざす。</p>	<p>①5/31「Wordで作るチラシ講座」参加者4名(豊新、大桐、一般参加者)</p> <p>②6/9「フォトムービー作成のための全体会議」参加者20名(参加6地域) 地域自慢フォトムービーを作成し、東淀川区YouTube公式チャンネルに投稿。投稿後1ヶ月で約200PV、2/13現在317PV</p> <p>③8月中旬「東淀川区民まつり」ポスターをデザイン。地活協広報にも使える、区民参加型広報のテストマーケティングを実施。</p> <p>充実した広報講座のほか、丁寧な個別支援は非常に重要だと考えている。SNSによる双方向の情報発信ができることのメリットを引き続き伝えていただきたい。</p>	<p>①大桐地域の夏祭りポスターへアドバイス実施。</p> <p>②第3回東淀川みらいEXPOにて、地域活動フォトムービーをプレ上映し、区民まつり当日、休憩所にて上映。また、東淀川区YouTube公式チャンネルに投稿。投稿後1ヶ月で約200PV、2/13現在317PV</p> <p>③区民まつりポスターにおいて、SNSに「#45th東淀川区民まつり」投稿で、次年度の区民まつりに写真を使う可能性あり、の掲載。当日、告知はしなかったが、ツイッター15件、インスタグラム1件、FACEBOOK1件あり。</p> <p>広報講座を経て、個別地域への支援につながっている。取り組まれた内容の横展開についてもお願いしたい。</p>	<p>①各地域への広報支援は、ニーズを聴き、個別に対応していく。</p> <p>②SNS広報ツールや動画の効果的な利用法について、検討が必要。3/16「プロのWEBディレクターに学ぶ「伝わる!!」Facebook広報」を実施予定。</p> <p>③区民まつりポスターを題材としたテストマーケティングの結果分析を行い、地域への提案に繋げたい。</p> <p>広報講座の開催によって生まれるであろう個別地域のニーズへの支援を引き続きお願いしたい。 また、電子媒体による発信は、行事の告知や、民主的で透明性のある組織運営であることの認知向上に有効であることを地活協に粘り強く伝え、取り組まれるよう支援していただきたい。</p>